(財)八尾市文化財調査研究会報告119

教　興　寺　跡

第３次調査

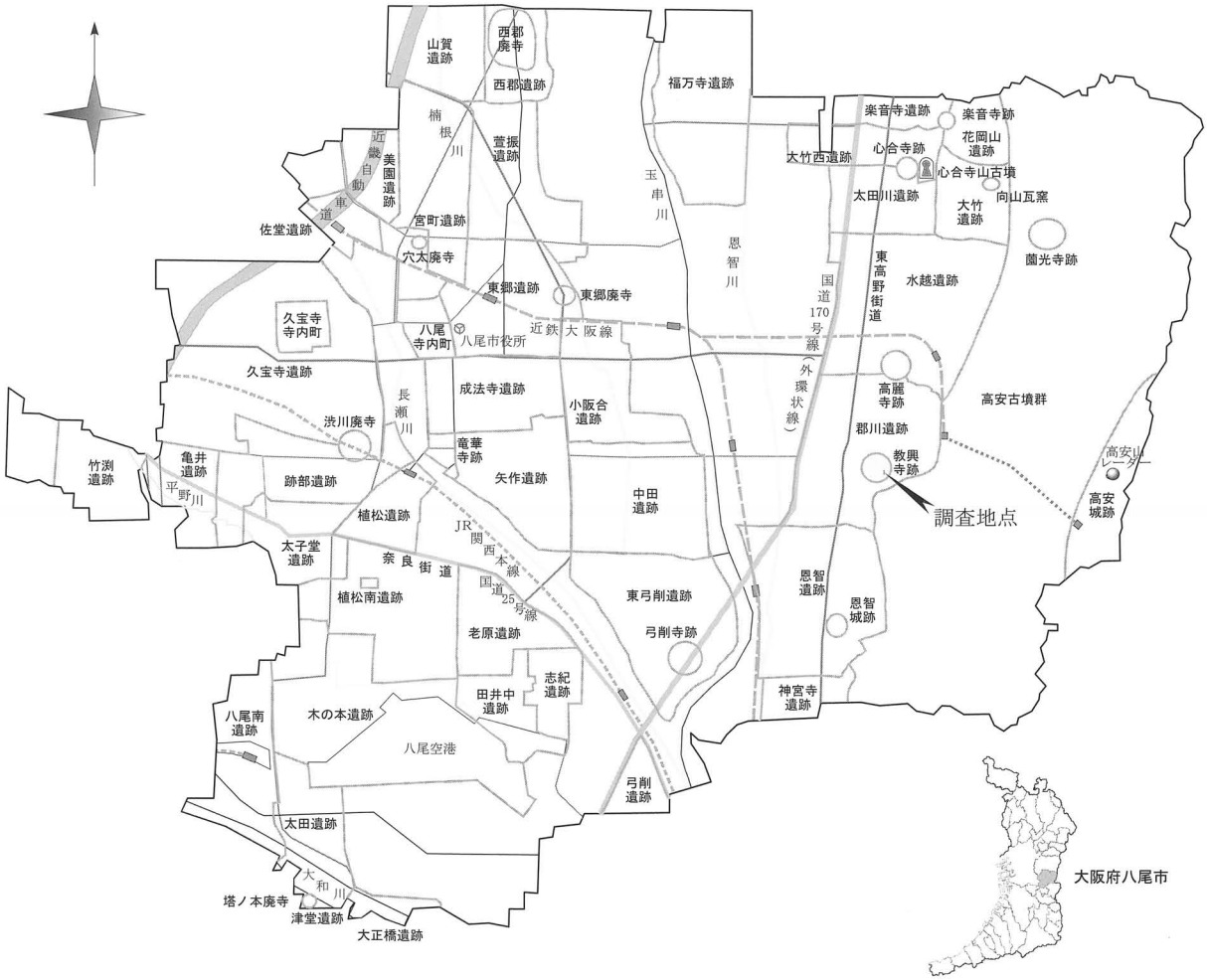
2008年

財団法人　八尾市文化財調査研究会

(財)八尾市文化財調査研究会報告119

教　興　寺　跡

第３次調査



2008年

財団法人　八尾市文化財調査研究会

はしがき

教興寺跡は八尾市の東部に位置し、生駒山地のなかでも高安山の麓に広がる扇状地にあります。この扇状地付近は古来より人々の生活の場として栄えていた地域であり、先人が残した貴重な文化遺産が数多く遺存しております。

近年、都市開発に伴い各種土木工事が実施され、破壊され消滅する埋蔵文化財が存在します。それらに対して事前の発掘調査を実施し、記録保存をおこない、先人が残してくれた貴重な文化財を後世に伝承することが我々の責務であると認識する次第であります。

教興寺跡は過去の発掘調査では、縄文時代の人々が居住していたことや、奈良時代の寺域の存在、および鎌倉時代から近世に至る居住域を確認しています。

この度、平成19年度に実施いたしました寺池改修工事に伴う発掘調査の報告書を刊行する運びとなりました。本調査では室町時代の遺構を確認し、寺池の南東部に当時代の居住域が存在していることが明らかになりました。

本書が学術研究の資料として、また文化財保護への啓発に広く活用されることを願うものであります。

最後になりましたが、この発掘調査が、関係諸機関及び地元の皆様の多大なる御理解と御協力によって進めることができましたことに深く感謝の意を表します。今後とも文化財保護に一層の御指導ならびに御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年12月

財団法人　八尾市文化財調査研究会

理事長　岩　﨑　健　二

例　　言

1．本書は、大阪府八尾市教興寺六丁目１番地で実施した寺池改修工事に伴う教興寺跡第３次発掘調査（ＫＯ2007－３）の発掘調査報告書である。
1．本調査は、八尾市教育委員会の埋蔵文化財調査指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1．調査は当調査研究会の西村公助が担当した。
1．現地調査は平成19年12月19日に着手し平成20年２月６日に終了した。調査面積は約126㎡である。
1．現地調査には、岩本順子・村井厚三・吉川一栄・和田直樹の参加を得た。（敬称略、五十音順）
1．内業整理は下記が参加し、現地調査終了後に着手して平成20年９月30日をもって終了した。（敬称略、五十音順）
　遺物実測－中村百合
　図面トレース－西村
　遺物写真撮影－木村健明（当研究会嘱託）・西村
1．本書の執筆及び編集は西村が行った。
1．調査に際しては、写真・実測図を作成している。市民の方々に広く利用されることを希望する。

凡　　例

1．本書掲載の地図は、大阪府八尾市役所発行の2500分の１地形図（平成８年７月編纂）を基に作成した。
1．本書で用いた高さの基準は東京湾標準潮位（T.P.）である。
1．本書で用いた方位は国土座標第Ⅵ座標系の座標北を示している。
1．土色については、『新版　標準土色帖』1996　農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修を使用した。

本　文　目　次

第１章　はじめに……1
第２章　調査概要……3
　第１節　調査の方法と経過……3
　第２節　層序……3
　第３節　検出遺構と出土遺物……5
第３章　まとめ……9

第１章　はじめに

教興寺跡は、八尾市の東部、現在の行政区画の教興寺六～七丁目・黒谷三～四丁目の各一部に存在したと推定される古代寺院である。当寺跡は、生駒山地西麓に広がる扇状地上の標高約20～30mに存在し、東高野街道と東西に通る信貴道との交差点に位置する。当寺跡は、郡川遺跡の範囲に含まれ、当遺跡の周辺には北に水越遺跡、東に高安古墳群、南に恩智遺跡が存在している。

当寺跡内では八尾市教育委員会(以下市教委)、八尾市文化財調査研究会(以下研究会)が発掘調査を実施しており、縄文時代から近世の遺構･遺物が検出されている。今回の調査地の周辺では、北に約100m地点で昭和57年度に市教委が教興寺の調査(以下市教委教興寺調査)を行っており、平安～近世の瓦の出土および室町～江戸時代の遺構を検出している(米田1983)。また、西約50m地点には平成３年度に研究会が実施した第１次調査地(以下１次)があり、５世紀末～６世紀前半の古墳および奈良時代の遺構を検出している。ここでは特に飛鳥時代～中世にわたる瓦が多数出土しており、当寺跡は飛鳥時代から存在していたことが明らかになった(坪田2002)。さらに、南に隣接する地点では平成４年度に研究会が実施した第２次調査地(以下２次)があり、縄文時代中期末の遺構、遺物を検出している(坪田2002)。

表１　周辺の調査一覧表

遺跡名	調査主体(図１掲載略号)	調査年月	文献	発行年
教興寺跡	市教委	昭和58年２月	八尾市文化財調査報告９	1983
教興寺跡	市教委(91-326)	平成３年10月	八尾市文化財調査報告26	1992
教興寺跡	研究会(K091-１)	平成３年12月～４年１月	(財)八尾市文化財調査研究会報告72	2002
教興寺跡	研究会(K092-２)	平成４年11月～12月	(財)八尾市文化財調査研究会報告72	2002
教興寺跡	研究会(2006-98)	平成18年10月	八尾市文化財調査報告55	2007
教興寺跡	研究会(K02007-３)	平成19年12月～平成20年２月	今回の調査	
郡川	市教委(63-193)	昭和63年９月	八尾市文化財調査報告19	1989
郡川	市教委(89-224)	平成元年７月	八尾市文化財調査報告20	1990
郡川	市教委(89-032)	平成元年８月	八尾市文化財調査報告21	1990
郡川	市教委(半銅池)	平成元年11月	八尾市文化財調査報告21	1990
郡川	市教委(89-399)	平成２年１月	八尾市文化財調査報告21	1990
郡川	研究会(KR89-１)	平成２年２月	(財)八尾市文化財調査研究会報告57	1997
郡川	研究会(KR90-２)	平成２年５月～８月	(財)八尾市文化財調査研究会報告64	1999
郡川	市教委(90-105)	平成２年５月	八尾市文化財調査報告23	1991
郡川	市教委(93-075)	平成５年７月～８月	八尾市文化財調査報告29	1994
郡川	市教委(96-275)	平成８年９月	八尾市文化財調査報告36	1997
郡川	市教委(97-696)	平成10年３月	八尾市文化財調査報告40	1999
郡川	市教委(98-400)	平成10年12月	八尾市文化財調査報告40	1999
郡川	研究会(2002-65)	平成14年11月	八尾市文化財調査報告48	2003
郡川	研究会(2002-304)	平成15年９月	八尾市文化財調査報告49	2004
郡川	研究会(2003-219)	平成15年10月	八尾市文化財調査報告49	2004
郡川	研究会(2003-278)	平成16年９・10月	八尾市文化財調査報告50	2005
郡川	研究会(KR2004-４)	平成16年９月～12月	八尾市立埋蔵文化財調査センター報告６	2005
郡川	研究会(2004-251)	平成16年11月	八尾市文化財調査報告50	2005
郡川	研究会(2005-414)	平成18年２月	八尾市文化財調査報告55	2007
郡川	研究会(2006-166)	平成18年９月	八尾市文化財調査報告55	2007
郡川	研究会(2006-516)	平成19年４月	八尾市文化財調査報告57	2008
郡川	研究会(KR2007-６)	平成19年４月～５月	平成19年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告	2008
郡川	研究会(KR2007-７)	平成19年９月～11月	平成19年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告	2008
郡川東塚	市教委(2000-306)	平成12年11月～13年12月	八尾市文化財調査報告46	2002
郡川東塚	研究会(Ｔ2001ＫＯＨ)	平成13年10～12月	八尾市立埋蔵文化財調査センター報告７	2006
郡川東塚	研究会(2002-153)	平成14年08月	八尾市文化財調査報告48	2003
高安古墳群	市教委(94-360)	平成６年10月	八尾市文化財調査報告31	1995
高安古墳群	市教委(95-586)	平成８年１月	八尾市文化財調査報告36	1997
高安古墳群	研究会(2004-211)	平成17年７～９月	八尾市文化財調査報告53	2006
高安古墳群	研究会(Ｔ2005-３)	平成17年９月	平成17年度(財)八尾市文化財調査研究会事業報告	2006

※調査主体　凡例　市教委：八尾市教育委員会　研究会：(財)八尾市文化財調査研究会

2002-65
98-400
2003-278
2000-306
2002-153
T2001KOH
郡川西塚古墳
郡川東塚古墳
2002-304
93-075
2006-166
KR2007-7
KR2007-6
96-275
2003-219
89-399
KR89-1
90-105
2006-516
63-193
89-032
KR90-2
市教委
教興寺
91-326
K02007-3
今回の調査地
K091-1
2004-251
2006-98
K092-2
市教委
半銅池
KR2004-4
T2005-3
2004-211
97-696
89-224
95-586
2005-414
94-360
0 (1:5000) 100m

図1　調査地周辺図

第２章　調査概要

第１節　調査の方法と経過

今回の調査は、寺池改修工事に伴うもので、研究会が教興寺跡内で行った第３次調査にあたる。調査は護岸改修する部分(幅約1.7m、長さ約74m、面積約126㎡)を対象に行った。調査区は南北に細長く、掘削土の置き場所が狭いことから、四つの調査区に分割(北から**１～４区**)し、調査は**２区**、**１区**、**３区**、**４区**の順に行った。

調査にあたっては、市教委の埋蔵文化財調査指示書に従い、現地表下約0.3m前後を機械掘削し、以下1.1m前後の厚みの地層は人力により掘削を行い、遺構の検出に努めた。なお、４区の南部には土石流が堆積していたため、人力と機械を併用して掘削を行った。調査では、国土座標第Ⅵ系を基準に地区割りを行った。地区割りは、本調査地の北東に位置する座標点(X＝-153.240km:Y＝-33.300km)を基点とし、本調査地を包括する東西20m、南北80mの範囲に10mメッシュを設定した。北東隅を基点として、東西方向をアルファベット(東からＡ・Ｂ)、南北方向を算用数字(北から１～８)で表し、１Ａ区～８Ｂ区とした。遺構番号は、遺構略号の後に３桁の算用数字で表現した。３桁の数字の内、上１桁は遺構検出面を表し、それ以下の桁で遺構の検出番号を示す。

調査の結果、**第１面**では室町時代、**第２面**では縄文時代～古墳時代の遺構を検出した。出土遺物量は、コンテナ（縦0.6m×横0.4m×深さ0.15m）１箱である。

第２節　層序

現地表面はT.P.＋28.7m前後で、以下７層の地層を確認した。

１層　7.5YR7/6橙色細粒砂～細粒シルト。植物遺体を多く含む寺池の堆積土である。

２層　N5/0灰色粘土。植物遺体を多く含む寺池の堆積土である。

３層　10YR5/2灰黄褐色細粒砂～粗粒砂の流水堆積である。

４層　10YR3/4暗褐色細粒砂混粘土(植物遺体含む)。上面は土壌化している。室町時代の遺構を検出した(**第１面**)。層内からは奈良時代の瓦の破片が出土した。

５層　10YR3/4暗褐色粗～細粒砂。上面は土壌化している。

６層　10YR2/1黒色粗粒砂混粘土。上面は土壌化している。５・６層上面で、縄文時代～古墳時代の遺構を検出した(**第２面**)。

７層　5B5/1青灰色細～中礫。土石流堆積。

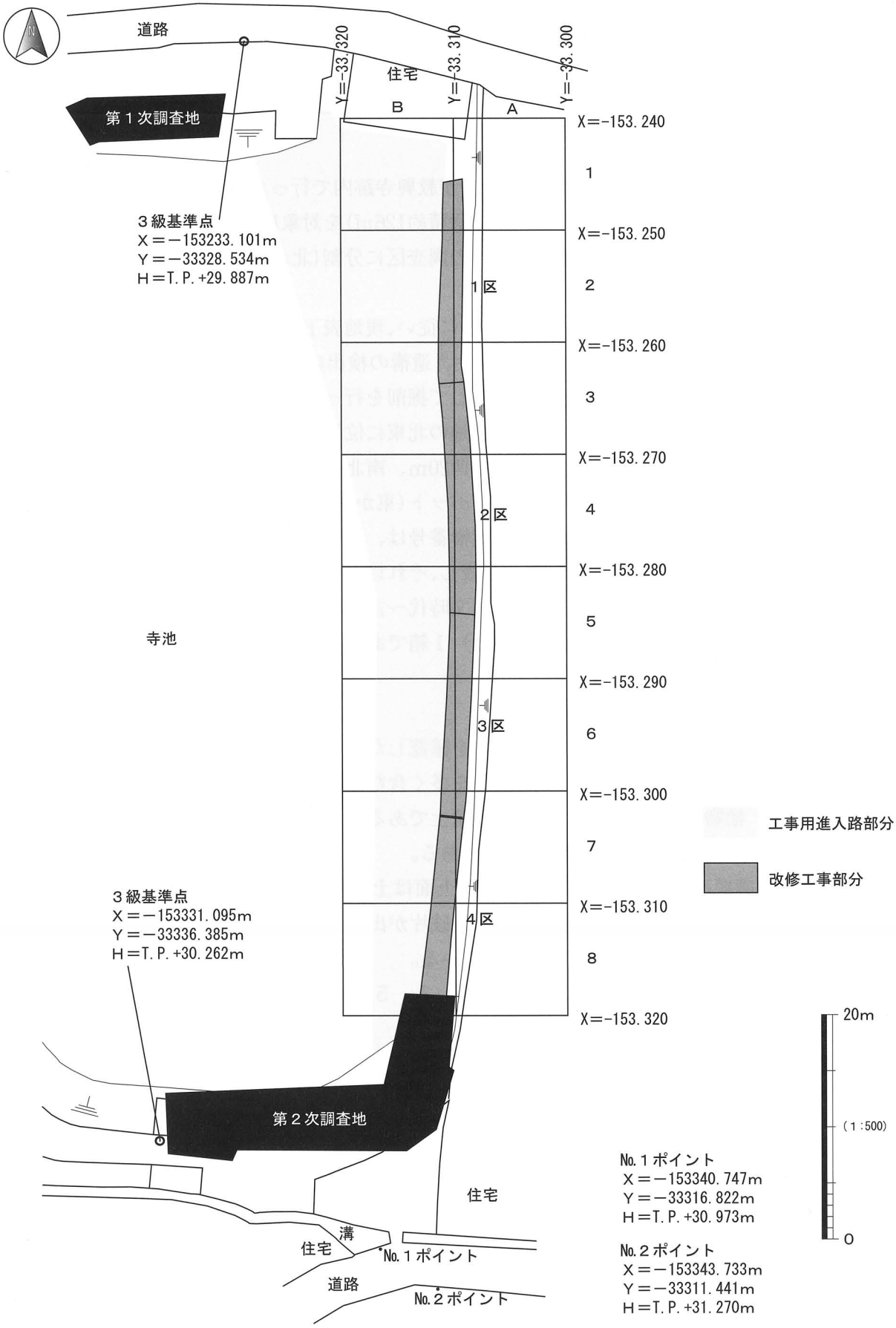

道路
住宅
Y=-33.320
Y=-33.310
Y=-33.300
B
A
第１次調査地
X=-153.240
1
X=-153.250
2
X=-153.260
3
X=-153.270
4
X=-153.280
5
X=-153.290
6
X=-153.300
7
X=-153.310
8
X=-153.320
１級基準点
X＝－153233.101m
Y＝－33328.534m
H＝T.P.+29.887m
１区
２区
３区
４区
寺池
工事用進入路部分
改修工事部分
３級基準点
X＝－153331.095m
Y＝－33336.385m
H＝T.P.+30.262m
第２次調査地
20m
(1:500)
0
住宅
溝
住宅
No.１ポイント
道路
No.２ポイント
No.１ポイント
X＝－153340.747m
Y＝－33316.822m
H＝T.P.+30.973m
No.２ポイント
X＝－153343.733m
Y＝－33311.441m
H＝T.P.+31.270m

図２　地区割図

第３節　検出遺構と出土遺物

第１面では、室町時代の溝２条（ＳＤ101・102）を検出した。また第２面では、縄文時代～古墳時代の河川２条（ＮＲ201・202）を検出した。

第１面

ＳＤ101

８Ｂ区で検出した。平面形状は南東－北西方向へ直線に伸び、幅は0.6～0.8mを測る。断面形状は逆台形を呈し、深さは0.1mを測る。埋土は7.5YR3/4暗褐色粘土質細粒シルトで、土師器の破片が出土した。

ＳＤ102

７Ａ・Ｂ区で検出した。平面形状は南北へ直線に伸び、南部は、西に直角に折れ曲る。幅は0.4～1.0mを測る。断面形状は逆台形で、深さは約0.4mを測る。埋土は5YR3/1黒褐色粗粒砂混粘土（植物遺体含む）で、土師器、瓦器、瓦の破片が出土した。このうち図化したものは１～９である。１～４は土師器小皿の完形品で、５は土師器小皿の破片である。１～４は２段に外反し、口縁部付近で器壁が厚くなり、端部は尖りぎみに丸く終わる。底部は上げ底である。内面はユビナデ。外面のヨコナデは口縁部付近のみで、下半はユビナデを施す。口径は8.0～8.2cm、器高は1.4～1.6cmを測り、ほぼ同じ大きさのものである。室町時代前期の14世紀末～15世紀初め頃に比定できる（阿部1982）。５は内外面ともユビナデで仕上げられている。６・７は丸瓦である。６・７の凹面には布目を、凸面にはナデを施す。８・９は平瓦である。８の凹面には布目を、凸面には縄目タタキを施す。９の凹面には布目を、凸面にはナデを施す。

第２面

ＮＲ201

６～８Ａ・Ｂ区で検出した。南東～北西へ直線に伸び、幅は19mを測る。断面形状は逆台形を呈し、深さは約0.9mを測る。埋土は、10YR6/1褐灰色細～中礫混粗粒砂で、古墳時代前期の古式土師器が出土した。このうち図化したものは10である。10は高杯で、裾部は「ハ」の字にひらき、端部は上外方につまみ出し、丸みのある面を形成する。内外面ともにユビナデを施す。

ＮＲ202

１～３Ａ・Ｂ区で検出した。南東～北西へ直線に伸び、幅は10m以上を測る。断面形状は逆台形を呈し、深さは約0.5m以上を測る。埋土は10YR6/1褐灰色中礫混細粒砂で、縄文土器が出土した。このうち図化したものは11～13で、これらは晩期中葉に比定できる。11は深鉢の口縁部で、外面に二枚貝条痕文を施す。口縁部の外面には煤が付着している。12は深鉢の口縁部である。口縁部の外面には強いヨコナデにより段がある。13は深鉢の体部～底部である。

遺構に伴わない出土遺物

４層からは瓦が出土した。このうち図化したものは14である。14は平瓦である。厚み1.3cmを測りやや薄く、色調は青灰色で、硬く焼き締まっている。凹面には布目を、凸面には縄目タタキを施す。この瓦の類例には１次の第②層出土の74（坪田2002）がある。

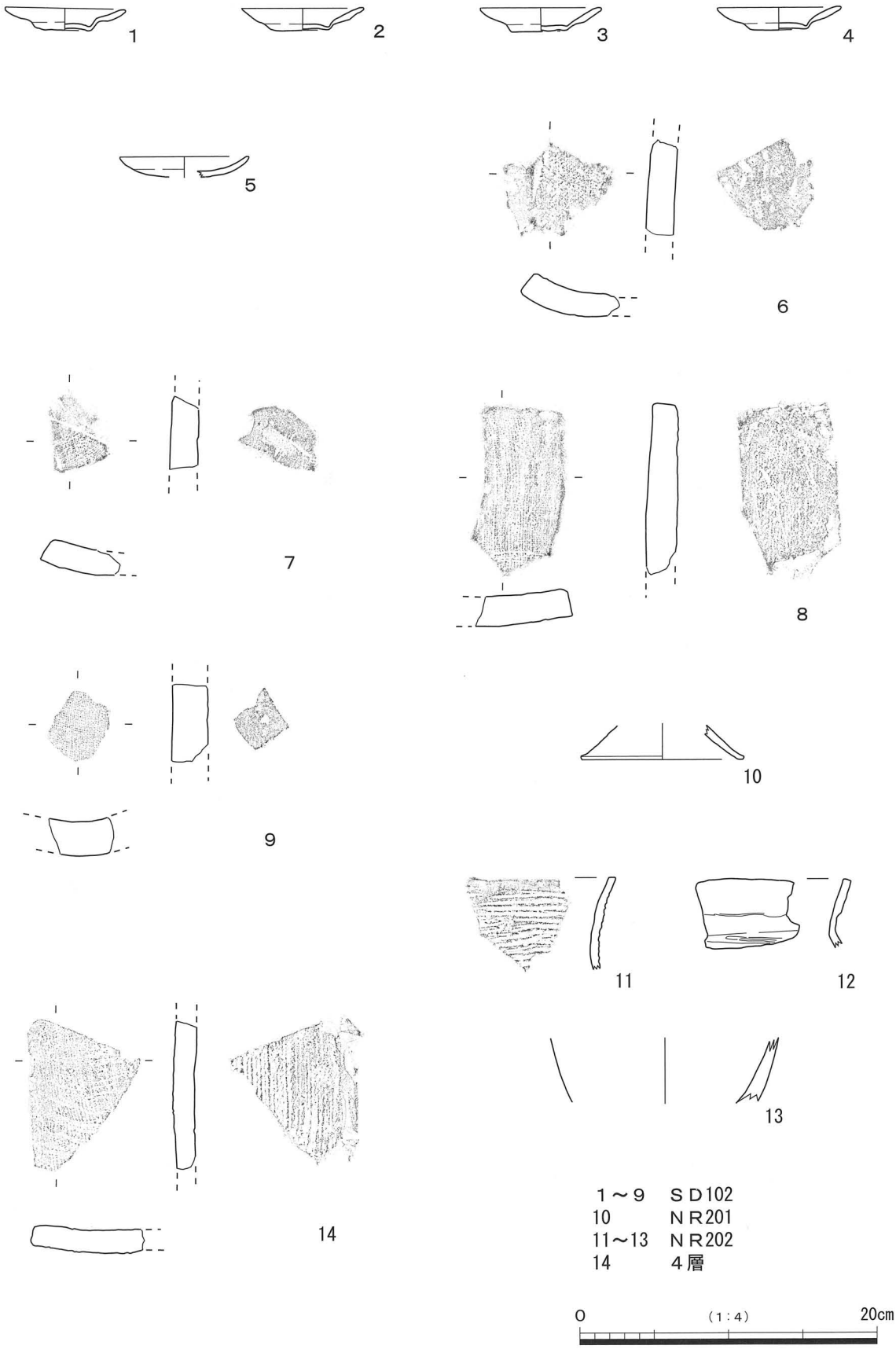
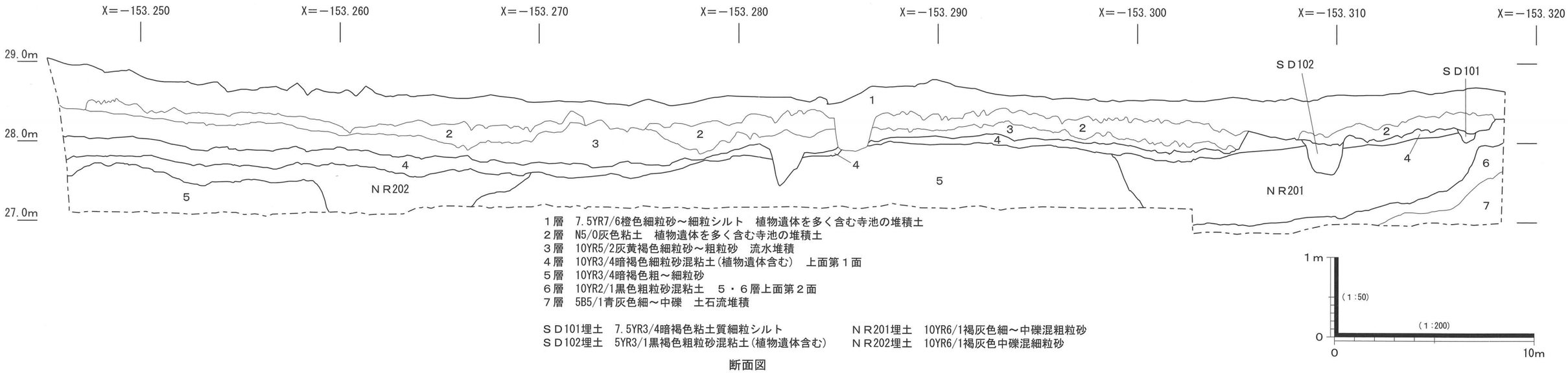

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
1～9　SD102
10　NR201
11～13　NR202
14　4層
0
(1:4)
20cm

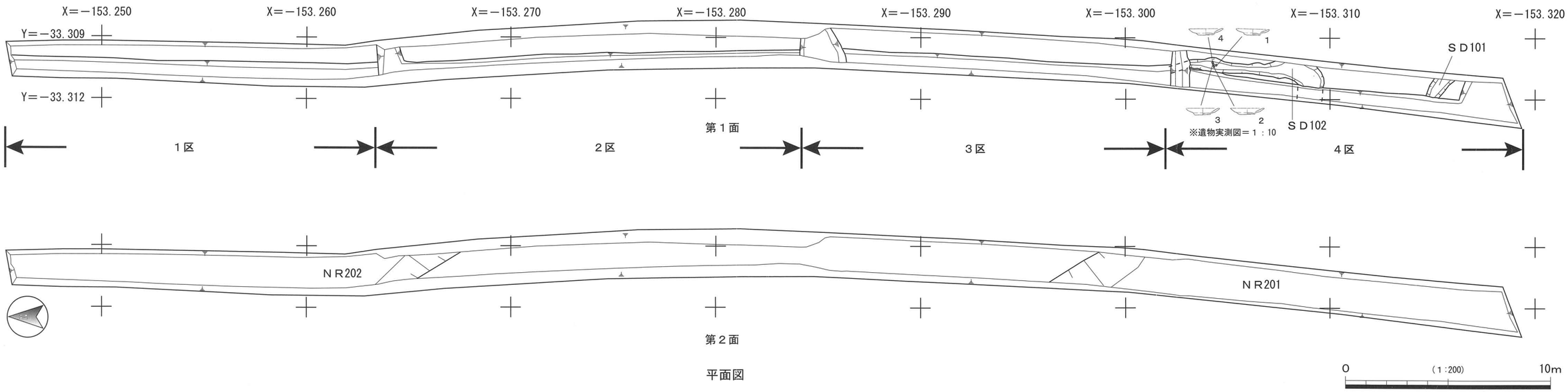
図3　出土遺物実測図



１層　7.5YR7/6橙色細粒砂～細粒シルト　植物遺体を多く含む寺池の堆積土
２層　N5/0灰色粘土　植物遺体を多く含む寺池の堆積土
３層　10YR5/2灰黄褐色細粒砂～粗粒砂　流水堆積
４層　10YR3/4暗褐色細粒砂混粘土(植物遺体含む)　上面第１面
５層　10YR3/4暗褐色粗～細粒砂
６層　10YR2/1黒色粗粒砂混粘土　５・６層上面第２面
７層　5B5/1青灰色細～中礫　土石流堆積

ＳＤ101埋土　7.5YR3/4暗褐色粘土質細粒シルト
ＳＤ102埋土　5YR3/1黒褐色粗粒砂混粘土(植物遺体含む)
ＮＲ201埋土　10YR6/1褐灰色細～中礫混粗粒砂
ＮＲ202埋土　10YR6/1褐灰色中礫混細粒砂

断面図



平面図

図４　平・断面図

第３章　まとめ

本調査地の北部の市教委教興寺調査では、鎌倉時代末～室町時代初頭の丸瓦が出土し、室町時代の礎石を検出しており、寺域の存在が明らかになった(米田1983)。本調査の**第１面**では、室町時代前期(14世紀末～15世紀初め頃)に比定できる遺構を検出したことから、教興寺の寺域南部に居住域が広がっていた可能性がある。なお、寺池の築造は室町時代以降と推定される。

第２面の河川２条(ＮＲ201・202)は、出土した遺物から、まず調査地北部のＮＲ202が縄文時代晩期に埋没し、南部のＮＲ201が古墳時代前期に埋没したことがわかった。

なお、ＮＲ201は地層の検討から、南隣の２次のＮＲ１(基本層序の②層)(坪田2002)に相当し、ＮＲ201とＮＲ１は同一の遺構であることが判明した。したがって、川幅は20m以上あったと推測できる。

参考文献

・阿部嗣治　1982「Ⅵ.土師器皿編年試案」『若江遺跡発掘調査報告書Ⅰ　本文編』東大阪市遺跡保護調査会
・米田敏幸　1983『八尾市内遺跡昭和57年度発掘調査報告書　-教興寺の調査-』八尾市文化財調査報告９　昭和57年度国庫補助事業　八尾市教育委員会
・嶋村友子　1987『八尾市内遺跡昭和61年度発掘調査報告書Ⅰ』-恩智遺跡の調査-八尾市文化財調査報告14　昭和61年度国庫補助事業　八尾市教育委員会
・滝　斎　1992「７．教興寺跡(91-326)の調査」『八尾市内遺跡平成３年度発掘調査報告書Ⅱ』八尾市文化財調査報告26　八尾市教育委員会
・坪田真一　2002『教興寺跡』〈第１次調査・第２次調査〉(財)八尾市文化財調査研究会報告72　(財)八尾市文化財調査研究会
・原田昌則　1999「Ⅲ　郡川遺跡(第２次調査)」『(財)八尾市文化財調査研究会報告64』(財)八尾市文化財調査研究会

図　　版

図版1

調査前（南から）

１区１面全景（北から）

２区１面全景（北から）

３区１面全景（南から）

４区１面全景（南から）

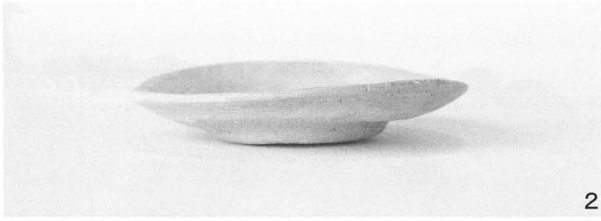
４区２面全景（南から）

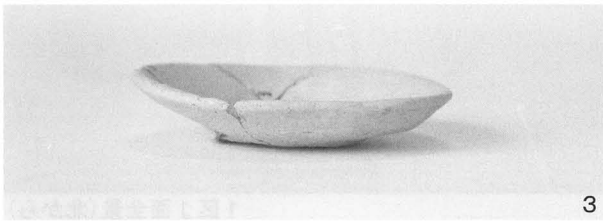
ＳＤ102（北から）

ＳＤ102遺物出土状況（北から）

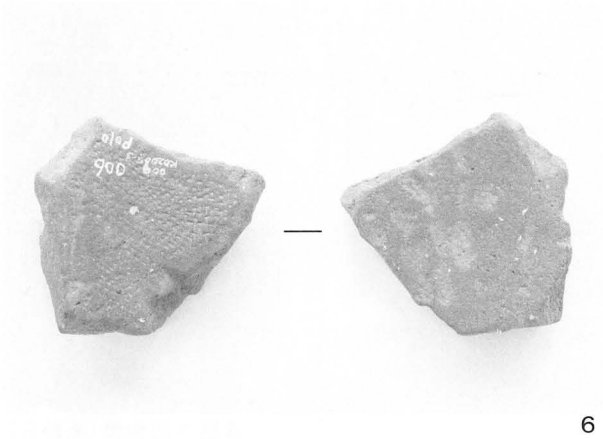
図版2

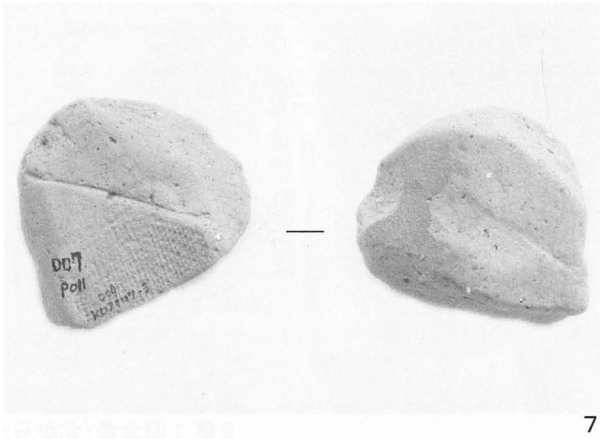
1

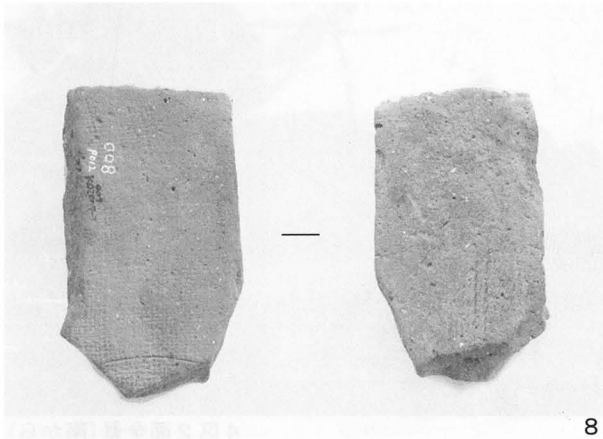

2

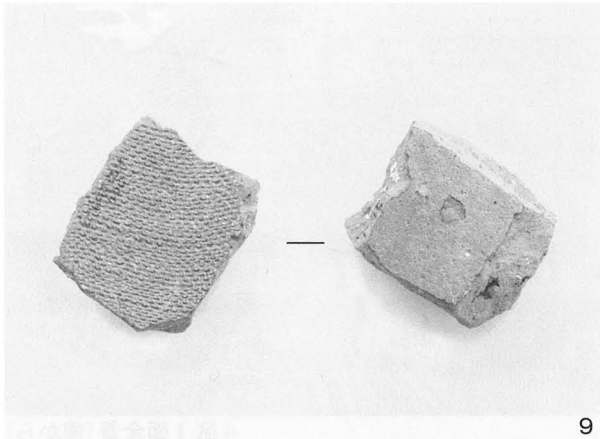

3

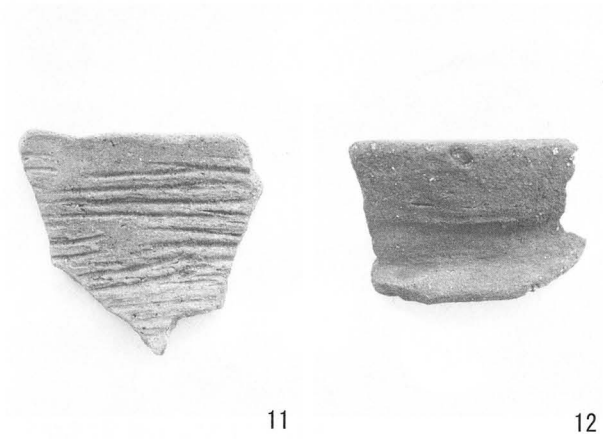
4

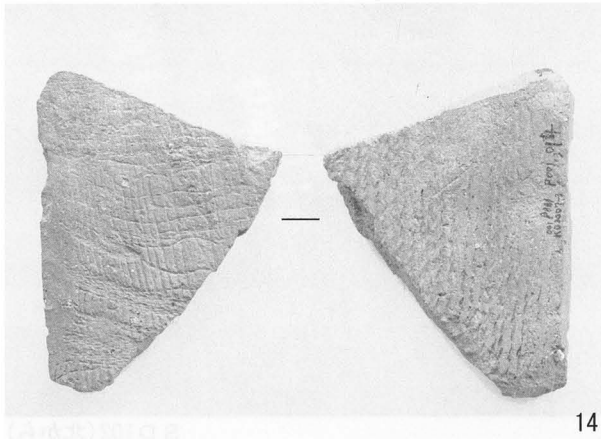

6


7


8


9


11 12


14

ＳＤ102（１～４　６～９）　ＮＲ202（11・12）　４層（14）出土遺物

報告書抄録

ふりがな	ざいだんほうじん　やおしぶんかざいちょうさけんきゅうかいほうこく119
書名	財団法人　八尾市文化財調査研究会報告119
副書名	教興寺跡　第３次調査
巻次	
シリーズ名	財団法人　八尾市文化財調査研究会報告
シリーズ番号	119
編著者名	西村公助
編集機関	財団法人　八尾市文化財調査研究会
所在地	〒581－0821　大阪府八尾市幸町四丁目58－２　TEL・FAX　072－994－4700
発行年月日	西暦2008年12月12日

所収遺跡（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
教興寺跡（きょうこうじあと）（第３次調査）	大阪府八尾市教興寺六丁目（おおさかふやおしきょうこうじ）	27212	19	34度37分03秒	135度38分12秒	20071219～20080206	約126	寺池改修工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
教興寺跡（第３次調査）	集落	室町時代 古墳時代前期 縄文時代晩期	溝２ 河川１ 河川１	土師器 古式土師器 縄文土器	

要約	室町時代の教興寺の寺域南部に広がる居住域の遺構を検出した。また、生駒山地の西麓から平野部にかけてひろがる扇状地上を南東～北西に流れる縄文時代と古墳時代の河川を検出した。

財団法人　八尾市文化財調査研究会報告119

教　興　寺　跡

第３次調査

発　行　　2008年12月
編　集　　財団法人　八尾市文化財調査研究会
〒581－0821
大阪府八尾市幸町四丁目58番地の２
TEL・FAX 072－994－4700

印　刷　　㈱近畿印刷センター
〒581－0033　八尾市志紀町南二丁目131番地
TEL 072－920－3488
表　紙　　レザック66　　＜175Kg＞
本　文　　ニューエイジ　＜ 70Kg＞
図　版　　ニューエイジ　＜ 70Kg＞

教興寺跡 第3次調査

財団法人 八尾市文化財調査研究会報告119

二〇〇八年

財団法人 八尾市文化財調査研究会